

# しげ みつ 佐々木 茂 光

オフィシャルウェブサイト <http://sasa-shige.net/>

## 県政報告

### あの日を忘れない… 地域再生へ 全力で走る

#### ごあいさつ

初秋の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

東日本大震災から7度目の秋を迎えました。今年は七回忌という事で、改めて犠牲になられた方々に対し心からお悔やみ申し上げますと共に、被災された方々に対しお見舞いを申し上げます。

嵩上げ地の高田商店街のオープン、図書館の完成、松原地区の国営追悼祈念公園の着工と、復興の姿が徐々に見えておりますが、コミュニティーの再構築、高台移転工事の遅れなどでいまだ応急仮設住宅に居る方々への支援が課題として残っております。

岩手県は、昨年「復興完遂年」として予算編成し、一年が経過しました。何をもって「完遂」としたのか。「陸前高田市はこれからだぞ」「住田町のR340号の改良工事だって途上だぞ」と知事に、復興に対する姿勢、沿岸振興に対する姿勢を問いました。

今後とも、「被災地の声」を力に陸前高田市、住田町の発展に取り組んで参ります。ご指導、ご協力賜わりますよう心からお願い申し上げます。



〈決算等特別委員会〉



〈総務委員会〉

#### 県議会の所属委員会等

- 総務委員会副委員長
- スポーツ・教育振興調査特別委員会
- 岩手県議会水産振興議員懇談会
- 岩手県南・宮城県北議員連盟幹事長
- 岩手県議会港湾議員連盟 他



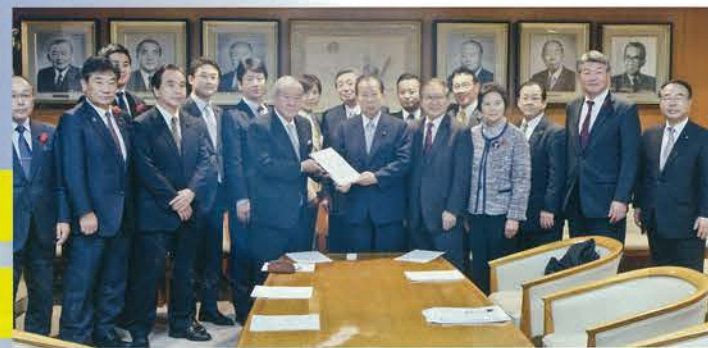


# 佐々木茂光 熱き思いを胸に

## 6月定例会一般質問に立つ!

### 国の出方を待っているのではダメだ!!

### 杭の1本でも打って行動あるのみ!



平成29年6月定例会7月3日、6回目の一般質問を行いました。主なその内容を掲載

#### 東日本大震災津波からの復興の課題について

第3期復興実施計画にける知事の決意は。

復興事業の総仕上げを視野に、事業を進めていくとともに、心と体の健康問題に対応するなど、被災者一人ひとりの復興を見守り、寄り添った支援を行いながら、全力で取り組んでいく。

いつ仮設住宅から出られるのか。仮設住宅の集約化計画の見直しや恒久住宅への移行支援はどうなっていくのか。

災害公営住宅は、平成29年度末で約9割、完成面整備事業についても、平成29年度末で8割の宅地が供給される見込みとなっており、恒久住宅が確保され次第、応急仮設住宅から移っていただく。

移行支援については「いわて内陸避難者支援センター」の相談員を9名に増員した。引き続き伴走型の支援を進めていく。



#### 第1次産業の振興について

林業の振興、県産材の利用促進、林業の担い手の育成についてどう考えるか。

「県が整備する低層の公共施設の木造化率100%」を新たな推進目標に掲げた。

低コスト化に関する情報共有、国の支援制度を活用、木造公共施設の県産材活用事例を紹介などにより、木材利用を推進していく。

担い手は、いわて林業アカデミーの修了生が「森林県いわて」の林業や地域をけん引する人材となるよう、産学官が一丸となって、その育成に努めている。

漁業担い手及び新規漁業就業者の確保に向け、今後、どのように進めていくか。また、漁業作業の省力化と効率的な漁業生産の整備をどのように進めていくつもりか。

「岩手県漁業担い手育成ビジョン」を策定し、施策の展開方向として、地域漁業を担う多様な担い手の育成と漁業就業希望者の受入体制の整備を位置付けた。

このビジョンの基本理念である「ひとが創る地域漁業、ひとを創る地域漁業」の実現に向けて、担い手確保・育成対

策を力強く推進していく。  
省力化に向けては、漁協等で国庫補助事業を活用し、陸揚げクレーンについて、事業計画のある283基全ての整備が完了し、潮位の変化に合わせて上下する浮棧橋を3漁港で整備した。

#### 地域の医療と福祉及び国民健康保険制度について

県立高田病院の再開を間近に控え、医師及び看護師の配置見直しはどうなっているのか。

県立高田病院については平成28年10月に建築工事に着手し、今度内の開院に向けて、進めている。医師については、常勤医師、診療応援により、診療体制を確保しており、新病院においても、更なる医師確保に向けて、取り組んでいく。必要な看護師はすでに配置している。

特色ある医療を展開していく必要があると考えるが、どのように医療提供体制を整備していくのか。

気仙地域においては、在宅医療連携拠点の運営に対する補助や、情報ネットワーク「未来かなえネット」の構築・運営に対する支援、今年度、県医師会が新たに設置した「在宅医療支援センター」との一体的な取組みを通じ、専門人材の養成、在宅医療を行う医師を支援するための仕組みづくりに取り組む。

被災地においては、一律な適用は混乱を招くのではないかと。配慮が必要ではないか。

平成30年度の納付金・標準保険料率を算定することとしており、その状況を踏まえながら、どのような激変緩和措置を講じることができるのか、市町村と協議していく。

#### 沿岸地域の道路整備等について



R340 下流部



R340 一部完成

「新笹ノ田トンネル」の整備等、内陸部と沿岸部を結ぶ横軸道路の早期整備と少しでも災害に強くという復旧の仕方、対策を講じるべきと考えるが。

気仙地区と内陸部を結ぶ道路は、「復興支援道路」に位置付け、整備を進め



R343

ている。  
笹ノ田峠トンネルについては、ILCの実現へ向けた進展も睨みながら、所要の検討を行っていく必要があると考えている。

また、適切な工法により再び被災しないような施設として復旧し、護岸の基礎を従前より深く、川底がより安定するように行うなど、災害に強い構造としている。

建設業の健全かつ安定的な経営環境の維持・改善を目指すi-Constructionをさらに促進していくことが必要と考えるが。

ドローンやGPS衛星等を利用した測量、ICT対応建設機械による施工を行う「ICT活用工事」を試行しており、講習会や説明会、現場見学会等を継続的に開催している。i-Constructionの普及には、受発注者協働で課題を解決していく必要がある。

#### 高田松原津波復興祈念公園及び周辺施設の整備について



松原防潮堤委員会調査



高田松原が以前のようなにぎわいの創出ができるよう、今後、この砂浜再生事業にどのように取り組んでいくつもりか。

高田松原津波復興祈念公園内の震災遺構については、遺構の周囲に安全対策を講



追悼祈念施設及び周辺区域イメージ

じた上で外部から見学を行う、「見守り遺構」として活用することとしている。  
モニタリングの結果、概ね計画どおり砂が維持されていることなどが確認されたことから、試験施工区間を含む1,000mの区間において、本格施工に着手することとし、現在、入札手続きを進めている。工事完了は平成30年度末を見込んでいる。



傍聴者との集合写真



熊本地震 益城町調査



市から県防災航空隊派遣の菅野裕樹隊長と



住田町議と台風10号被災要望



県道釜石住田線住田町長と



石井国土交通大臣要望



岩泉台風10号被害調査



ILC候補地 大東訪問

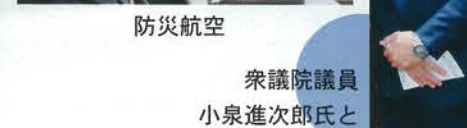
総務常任委員会調査・防災航空センター



防災航空



山田線調査



衆議院議員 小泉進次郎氏と

Activity Photograph 活動写真



衆議院議員 赤野寺五典氏と



衆議院議員 鈴木俊一氏 広田漁港視察



漁港調査



語り部 吉吉さんの案内



自民党本部岩手フェア



スポーツ・教育振興調査特別委員会視察



築地調査



神奈川県議団来市



岩手県立高田病院完成予想図



釜石現地視察



気仙側水門にて



合足海岸陸間調査

「県庁への道すがら…」

48名の県議会議員の中で盛岡に登庁するまでの所要時間が一番かかるのが私です。私のルートは、気仙町から世田米バイパスを通り、宮守ICから釜石自動車道に乗り、花巻JCTを経由し東北自動車道を北上して県都盛岡へ。所要時間は、2時間30分。この所要時間2時間30分を盛岡から東北道を南下すると、どこになると思いますか？福島県手前の白石IC辺りになるのです。このイメージを持ちながら住田から遠野への山並みを走っていると、いつも複雑な気持ちになります。

内陸と沿岸をいかに短時間で結ぶかです。国道343号線の新たな笹ノ田トンネルの整備や340・107・397号線の整備充実もことあるごとに訴えてきました。県執行部は「公共事業評価」や「安定的な事業予算の確保」といった我々からすると積極的とは思えない答弁のくり返し。

初登壇の時、「町も何もかも失った中で、平時のままの定規でいくと当てはまるものは何もない。俺たちが考え、定規を作り国に渡せば良い。今、何もないのだから道路1本を引いてくれ！それが我々の願いだ！」と訴えてきました。今でも県庁への道すがら頭の中はこの言葉が駆け巡っています。限られた費用の中でいかに速く内陸と沿岸を結ぶか、「距離・時間」の短縮を考えると、速度を落とすことなくスムーズな通行ができる道路整備、皆さんが安全安心に走行出来る路整備です。その成果として地権者や近隣住民の皆さんのおかげで、横田町から世田米間の車幅の狭かった区間の道路（R340）改良工事が進んだことは、感慨深いものがあります。そして関係各位に感謝しております。

しかし、冬場の安全走行などを考えるとまだまだ整備改良しなくてはならない区間が多数あります。県土整備部からは「またか」とうるさがられておりますが、道路の早期整備は、地場産業や観光振興交流人口に大きく関わる問題であり、今後も推進に向けて行動していく所存です。

道路（R343）にもかかわる大きなチャンスがILC（国際リニアコライダー）の候補地のゆくえです。この候補地が北上山地に決定されれば、おのずとその建設における道路整備が大きなものとなります。今回の再質問においても、「国の出方を待っているではダメだ。本気で考えるなら県が自らループ橋のトンネル化に伴う新笹野田トンネルの杭を、実験地の中心に位置する大東に1本、高田に1本、そういった世の中にもわかる行動を起こすことが不可欠だ。その杭を打つのはまさに知事だ！行動あるのみ！」このような知事への発言で質問を終えました。県庁への道すがら、山並みの風を感じつつ、ブレることなく、この道を進もうとアクセルを踏み込んでいます。

皆 さんの声をお聞かせ下さい

- ・ 県政に関するご意見・ご相談をお寄せ下さい。
- ・ 今回発行の「県政報告」や私の活動への御意見もお待ちしております。

佐々木茂光事務所

- 発行者 岩手県議会議員 佐々木茂光
- 発行所 佐々木茂光事務所
- 発行責任者 佐々木茂光

〒029-2203 岩手県陸前高田市竹駒町字館56-1  
**TEL 0192-53-1771**  
**FAX 0192-53-1770**  
 メール shigemitu@sasa-shige.net